

令和3(2021)年「正覚寺報」8月号

お知らせ

高齢者のコロナウイルスワクチン接種率は目標が達成されても、インド変異株の蔓延で若年層の感染率が高止まりして心配なことです。滋賀組の親鸞聖人讃仰布教大会も中止されてしまい残念なことであります。

さいわい、正覚寺の仏壮お聴聞の会は、予定通り、8月8日に実施致しました。

本年度の歓喜会も、当初、8月21日午前10時開催の予定で準備致しておりましたが、その後、国内のコロナ蔓延が急増して参りました。

ついては、役員関係者と相談の上、来る8月21日予定の本年度の歓喜会(かんぎえ)は休座とさせて戴きます。

折角本年度のご法座を楽しみにして戴いておりましたご門徒の皆様には、大変申し訳ないこととさせていただきます。

記

仏教壮年会お聴聞の会(8月8日(日)20時)
正覚寺歓喜会…休座と致します……

お聴聞の会をおたずねして

当院住職は、年に一度の布教使の大仕事として、毎年夏に開催される滋賀教区親鸞聖人讃仰布教大会にご指名戴いた組に赴いて御法話させて戴いて参りました。

今年の会所は、I組のE寺様のご縁でありました。コロナを御心配になっても、滋賀組のような「中止措置」ではなく、組の「物故者追悼法要」を中核に据えられての営みであり、ご参詣の皆様のお気持ちが一つになって盛り上がるよいご法座でありました。

今一つ、布教使の勝手を申しますと、実践運動の意味を兼ねて「ふとあおぎみるおす

がたは」という御法話テーマの仏教讃歌で御法話を結ぶに当たって、会所(えしょ)のご住職にご無理を申しまして、エレクトーン演奏に坊守様のお手を煩わせたことであります。

お蔭様で会所のご参詣の皆様のお気持ちが無事に広がり、およろこび戴いたことは申すまでもありません。

今後は御法話の自由度をもち上げるために、ご本堂での毎朝夕のお勤めが終わった後には必ず住職自身が演奏の復習を欠かさなくなりましたこととあります。

お聴聞とは何か。

仏説無量寿経の第十七願に「たとひわれ仏を得たらんに、十方世界の無量の諸仏、ことごとく咨嗟(ししゃ)して、わが名を称せずは(不悉咨嗟称我名者)、正覚を取らじ」(Ref註釈版聖典p18)とある咨嗟をさします。「咨嗟」とは、「讃嘆の意で、ほめ称えること」と脚注されています。お釈迦様がお名号の功德をお称え下さるお姿をお聞かせに与ることを申します。

教行信証の「行巻」の標拳には「諸仏称名の願」とあります。諸仏とは今生ではお釈迦様を指します。お釈迦様は、無量寿経の中味をお説き下さり、実践的に「南無阿彌陀佛」と大行を行じられるのであります。

諸仏とは、人間世界の「信心の人」「他力の念仏者」に当たります。お法りをお聞かせに与る他力の念仏者に付き従って、お聴聞をさせて戴くことにより、私達は、称えれば直ちに聞こえて下さる如来様のお喚び声をお聞かせに与るのであります。合掌。

(ご案内:正覚寺のホームページは、「正覚寺 北小松」でヒットする「FC2」からお入り戴けます)